# 日進月歩

VOL.190

発行 日進塾

## 心の根を太らせてますか

新学期が始まりました。
新学期を最高に充実したものにするために、君の「心の根」を太らせましょう！

当塾は、君の「心の根」を太く、たくましく育てます!!

**根気**
ゆっくりと土台をつくる忍耐力！
新学期は最後に焦らず着実に[illegible]の基礎力！[illegible]をしていくための土台となる力を育てよう

**根本**
大切なものを見失わない思考力！
君にとって本当に大切なことは何か？新学期にしっかり自分を見つめ直そう！

**根治**
[illegible]誰にでも失敗はある。くよくよしないで失敗をバネにしてやり直してみよう！

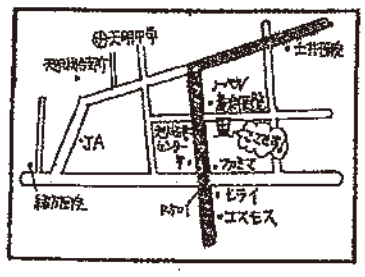
**根性**
絶対にあきらめない精神力！
新学期は、色んなことが盛りだくさん。目標を達成するためにネバーギブアップの強い気持ちを持とう！

・根治は「こんじ」または「こんち」と読みます。ものごとを根本から治すこと。

塾長からのメッセージ

## 決断の時が君のスタートライン

酷暑、猛暑と言われた今年の夏も終わりに近づいています。　読書の秋、スポーツの秋、
秋は一年で最もしっかりと落ち着いてすべてに集中して取り組める季節です。
毎日がつまらない、毎日が同じことの繰り返しでウンザリする。
君がそんな沈んだ気持ちになった時でも、君はいつでも新しいスタートラインに立てます。君のスタートラインは君のなかにあります。君が君らしく何かを[illegible]時、君の[illegible]
「もう遅い」「今更やってもしょうがない」と思っていたら君はスタートラインに立つことさえできません。「あの学校に入りたい」「将来あの仕事をやってみたい」君が強くそう願った時、君はたくましく君のスタートラインに立っています。新学期は、君がそんなスタートラインに立つための最高の学期です。
君の努力は決して君を裏切らない。





日進塾
熊本市南区錦塘町2136-8
096(223)3151
HP http://www.nisshinjuku.com/
日進塾 で検索！


# 日本の行事 秋編

## お彼岸

今、私達のいる煩悩(ぼんのう)や迷いに満ちたこの世をこちら側の岸(此岸(しがん))と言うのに対して、悟(さと)りの境地、極楽浄土を向こう側の岸、彼岸(ひがん)といいます。亡くなった先祖の霊が住む世界を彼岸と考えるようになり、太陽が真西に沈む秋分の日(春分の日)の夕方が極楽浄土への道しるべとなるとされ、先祖の霊を敬い墓参りをするようになったと言われます。現在は、秋分の日(春分の日)を中心に前後三日の一週間を彼岸と言いこの間にお供物をしてなくなった人々をしのびます。彼岸の頃は気候も良く過ごしやすくなります。家族そろってお墓参りに出かけましょう！

※おはぎとぼたもち
彼岸のお供え物として作られるおはぎ・ぼたもちは同じもの!! 春の彼岸の頃に咲く牡丹にちなんでぼたもち、秋の頃咲く萩にちなんでおはぎと言われています。

## もみじがり

平安時代、貴族たちの遊びとして紅葉を楽しんでいたものが庶民に広まったものです。
「狩り」とは、獣を捕まえる意味で使われていましたが、やがて、「狩り」は、狩猟をしない貴族が自然を愛でることを狩りに例え、「紅葉狩り」と言うようになったと言われています。
世界中でも、日本の紅葉が美しいと言われますが、気候風土のおかげです。地球の陸地の3割は森林ですがそのほとんどが紅葉のない針葉樹林や熱帯雨林、紅葉のある落葉樹があるのは、ほんの一部です。そんな貴重な土地で生活している私達はその自然の[illegible]技を大いに楽しみ観賞しましょう。

## 十三夜と十五夜

日本には古くからお月見をする風習があります。もともと平安中国から伝わり貴族の間で行われるようになった行事です。当時は詩歌を詠(えい)じ管弦を主とした風流なものでした。
現在のように供物をし農耕行事と結びついて収穫祭としての性格も持つようになったのは江戸時代のことです。
月見と言えば団子ですが十五夜には十五個、十三夜には十三個をお供えします。また、十五夜を中秋の名月と言うのに対して十三夜を「後(のち)の月」と言い両方を合わせて観賞することが習わし。片方しか見ないのは片見月と言い不吉とされていました。この秋は、すすきを飾りお団子を供えて秋の感傷にひたりながら月を観賞してみませんか。

・2023年の十五夜は9月29日(金)
　十三夜は10月27日(金)です。

## 七五三

室町時代、宮中や公家(くげ)で行われていた行事で、3歳の髪置(かみおき)(初めて髪を伸ばす儀式)、5歳の袴着(はかまぎ)(初めて袴をはく儀式)、7歳の帯解(おびとき)(付け帯を解いて大人の帯を締める儀式)が江戸時代一般的に行われるようになりました。
現在では、男の子は数え年で5歳(地方によっては3歳も)、女の子は、3歳と7歳に神社に参拝して無事成長したことに感謝し、これからの健やかな成長と幸せ、長寿をお祈りします。

※千歳飴(ちとせあめ)
七五三の時にいただく飴ですが、江戸時代、浅草の飴売りが長生きするようにと縁起をかついで棒状にして長くなめられる飴を「千年飴」と名づけ売り出すのが始まりと言われます。

NEWSLETTER